

Vol.
36

臓器移植経験者とそのご家族からの手紙

think transplant



がんばれ、
一緒にがんばっていこう！

レシピエントより

感謝してもきれないこのドナーさんへの思いを、言葉や形にすることがなかなかできず、誠に申し訳ありません。

来月の6月で、移植して3年の時を迎えようとしています。私がドナーさんの尊い命のバトンを受け取り、生まれ変わらせていただいた時から現在まで、語り尽くせないほどの感謝と喜びと、生きている有り難みを感じて参りました。

中学1年生の時、100万人に1人というとても珍しい病気になりました。それは、原因がわからず、治療法がない、治すことが難しい病気でした。私は小学生の時には、バレー部のキャプテンを務め、毎日100段もある階段を走り登って学校に通うような、普通の元気な女の子でした。そんな私が初めて父の涙を見たのは、13歳の夏、この病気であることを伝えてもらった時でした。その時、この病気が簡単なものではないことを、幼いながらに感じました。

それから、みんなが普通にできることが、だんだんとできなくなっていききました。大好きだったバレー部をやめ、体育も、遠足も、修学旅行も参加

できず、運動会はみんなを応援する係になりました。

高校生の時、24時間点滴で薬を流し続ける治療が始まりました。それは体に点滴の管を埋め込み、全身の血管を拡張し続けるもので、皮膚が熱を持って真っ赤になり、精神的につらい経験もありました。

大学の授業中に先生から、「その真っ赤な顔の学生、朝から酒なんて飲んでくるな。」とマイクで怒鳴られ、部屋中の学生が振り向き、笑いました。高校の先生から、「なんでお前は体育にも出てなくせに運動部より日焼けしているんだ。」と言われたり、知人から、「酸素と点滴で管がいっぱいでモルモットみたい。」と言われたこともありました。「そうですね。」と笑っていたけど、本当は泣きたいのをいつも必死でこらえていました。10～20代だった私に、この治療からくる外見的な副作用は、容易に受け入れられるものではありませんでした。でも生きていくために必要なんだと頑張りました。

それでもだんだんとできないことが多くなり、お風呂も1人では入れず、トイレへも途中で何度も休憩しなければ、行けなくなりました。家で家族と過ごせる時間より、入院している時間のほうが長くなっていきました。「こんなに頑張ってきたのにな…どうしても報われないことってあるんだな。」と知り、死を意識し始めていました。

その数か月後、ドナーさんの命のバトンを受け取りました。

移植は私を、1日で生まれ変わらせてくれました。10年間外せなかった酸素吸入と点滴の管が全て取り去られ、肌も真っ白になったのを見た時の感動は一生忘れられません。

今は一人暮らしをしながら、お仕事ができるまでになりました。

一緒にお風呂に入って、自分が風邪をひいてでも、いつも私の髪を先に洗って乾かしてくれていた母。一番の願いは私の病気が治ること、それが叶うなら他には何もいらないと、いつも自分のことより私の幸せを願い続けてくれた父。

先日帰省した時にはその両親を私が引っ張って、夕方の涼しい田舎道を親子3人で散歩しました。早く!!と走って坂を上ると、とても嬉しそうに後ろから見ていました。

移植後の体調管理は、以前よりもっと気をつけて行っています。この肺は、ドナーさんの尊い命をお預りしているという思いが強くあります。私の一番の自慢は、毎月の定期受診で主治医の先生に「今月も安定していますね」と言っていただけのことです。

これからも、私の中の応援団長のドナーさんから聞こえてきそうな、

「がんばれ、一緒にがんばっていこう!」の声と、いただいた大切な肺とともに、「この人によかった。」と思っただけのような生き方をしていきたいと思います。

心から、本当にありがとうございました。



ご息様から命の灯火を頂いた
娘の父母、家族一同より

謹啓 新緑の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

かけがえのないご息様から、大切な肺を頂戴しました娘の父でございます。計り知れない不思議なご縁を頂いて、この手紙をしたためさせていただきます。

3年前、私の娘は明日をも知れぬ、大変危険な状態にありました。日本有数の優れた医療スタッフのお力で何とか命を繋いできましたが、病の現実は厳しく、移植以外に生きる術はないところまで来ていました。それが、この度ご息様の貴重な肺を頂いたお陰で、今では1人で生活できるほど元気になり、「人並みに普通のことがしてみたい。」と願い続けてきた人生を叶えさせていただくことができたのです。何と有り難いことか。本人はもとより家族一同、心から感謝申し上げます。

娘は、幼い頃から明るく素直で、常に笑顔の絶えない人気者でした。この子がいるだけで、どれほど周りが和み、元気づけられたことか。私たちにとってこの子は太陽のような子でした。それが、中学に入った最初の健診で体の異常が見つかり、私たちの聞いたこともないような厳しい病名を

告げられたのでした。

私たちの人生が静かに、しかし確実に変わり始めました。親といえ代わってやることもできず、それでも、娘はつらい時ほど笑顔を見せ、悲しい時ほど明るく振る舞うような、そんな娘でありました。ところが、年ごとに病床で過ごす日が増え、医師からの言葉にも厳しさが増しました。半生半死のようなベッド生活を余儀なくされ、それでも「生きてくれるだけでいい。」と願う私たち。しかしそんな願いすら、年ごと、日ごとに削り取られていく現実。この子を失う日が来るのかと涙せずにはおれませんでした。内科治療の限界を告げられた日の絶望感を、今でも忘れることができません。

それが、病院から移植手術の連絡を受けた日。私たちの人生が、涙から笑顔へ、絶望から希望へ大きく変わったのです。こんな夢のような日が来るとは、とても思いませんでした。

移植手術が終わり、執刀してくださったドクターがモニターを見せながら、「ここから頂いた肺です。しっかりした立派な肺ですよ。」とおっしゃった時には、涙が止まりませんでした。弱り切っていた娘の心臓が、肺が、血流がいきいきと動いている。まさにご息様から、命のたすきをお受け取りした瞬間でした。24時間手放せなかった静注点滴の管が

外れ、手の平いっぱい薬から解放され、心沈む副作用のつらさも和らぎ、娘は今、生きる代償として手放した青春の喜びを取り戻そうと、新たな人生を元気に歩んでいます。それもこれも全て、ご息様のかけがえのない肺と、ドナーとして名乗りをあげてくださった尊いご心情のお陰です。何とお礼申し上げてよいのか、感謝の気持ちでいっぱいです。

娘は移植手術間もない頃、幻覚症状とは別に、激しい痛みの中で「この部屋にいつも誰か男の人がいるよ。お母さんには見えないの?」と口にしていました。容体が落ち着いた頃にそのお姿は見えなくなったので、「もしかしたら肺を提供してくださった方が、私をずっと見守ってくださっていたのかもしれない。」と申ししていました。その方こそ、ご息様であられたのでしょうか。

私たち家族は、ご息様の命日には、家族みんなで仏様にお参りしております。

「娘をお助けくださり、ありがとうございます。」

「娘に笑顔を取り戻してくださり、ありがとうございます。」

「私たちに命の尊さと、生きる喜びを教えてください、ありがとうございます。」

お察いたしますに、ご息様は人一倍賢く、人思いで、お体も健やかで



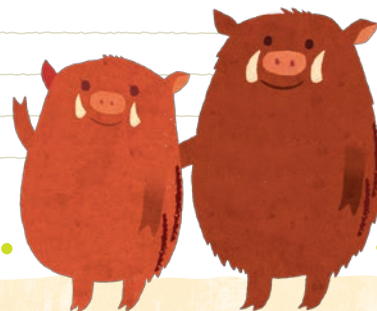
あられたようですね。そんなご息様を失くされたお母様の悲しみは、察するに余りあるものがございます。でも、ご息様は娘の中に確実に生き続けてくださっていますよ。

娘は「普通の人と同じように仕事ができる。」と感謝し、「今度は自分がお世話になった恩返しをしたい。」「ありがとうの気持ちを忘れない。」と笑顔で頑張っています。祈っても願っても叶うことのなかった生きる喜び、家族の幸せを、ご息様から恵んでいただくことができました。名も知らぬお方ではありますが、感謝しても感謝しきれず、ただただ両手を合わせ、拝ませさせていただきばかりです。

お母様がどれほど深くご息様を愛しんでおられたことかと思いを馳せながら、頂いたお命をけって無駄には致しません。どうぞお母様もご尊身をおいとくいただきますよう心から念じ申し上げます。

ありがとうございました。

本当に、ありがとうございました。







肺の移植を受けた女性とご家族から、ドナーファミリーへ贈られた手紙をご紹介します。

臓器移植でしか生きる術がない…全ての人に起こり得ることだからこそ、日ごろから臓器移植について知っておくことが大切です。移植を受ける・受けない、臓器を提供する・しない。いずれの意思も尊重されます。ぜひご家族や大切な方と話し合ってください。

意思表示の方法

臓器提供の意思は、以下の5つで表示できます。

-  健康保険証
-  運転免許証
-  マイナンバーカード
-  意思表示カード
-  インターネット

インターネットで意思を登録すると、IDの入ったカードが発行され、いつでも情報の変更や削除ができます。

グリーンリボンサポーター募集中!

グリーンリボン世界的な移植医療のシンボル。私たちは、普及啓発の応援団を「グリーンリボンサポーター」と称し、Facebookページへの「いいね!」など気軽な応援を呼びかけています。

 www.facebook.com/GreenRibbon.jp

寄付や賛助会への入会もサポートの1つ。ご寄付をいただいた場合、特定公益増進法人への寄付金として、税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは右記へお問い合わせください。



既にたくさんの方が臓器提供に関する意思を表示しています。それは、自分が助ける側にも、助けられる側にもなり得るから。あなたも表示しませんか?

自分の意思を選択

Step 1

1~3いずれかの番号に○をしてください。どの意思も等しく尊重されます。

1,2を選んだ方のみ 提供したくない臓器を選択

Step 2

提供したくない臓器があれば×をしてください。

脳死後に提供できる臓器

心臓・肺・肝臓・腎臓・膵臓・小腸・眼球

心臓が停止した死後に提供できる臓器

腎臓・膵臓・眼球

1,2を選んだ方のみ 特記事項を記入

Step 3

皮膚・心臓弁・血管・骨など臓器以外も提供したい方はその旨を、また親族への優先提供の意思を表示したい方はホームページなどで詳細をご確認のうえ、「親族優先」と記入してください。

Step 4

氏名などを記入

記入した意思は家族へ伝え、もしもの時に第三者が確認できるようにしてください。提出や郵送の必要はありません。家族署名欄がある場合は、家族から署名をもらおうと良いでしょう。

注意事項 保険医療機関等において診療を受けようとするときには、必ずこの証をその窓口で渡してください。

住所

備考

※ 以下の欄に記入することにより、臓器提供に関する意思を表示することができます。記入する場合は、1から3までのいずれかの番号を○で囲んでください。

1. 私は、脳死後及び心臓が停止した死後のいずれでも、移植の為に臓器を提供します。

2. 私は、心臓が停止した死後に限り、移植の為に臓器を提供します。

3. 私は、臓器を提供しません。

(1又2を選んだ方で、提供したくない臓器があれば×をつけてください。)

【心臓・肺・肝臓・腎臓・膵臓・小腸・眼球】

特記事項

署名年月日 年 月 日

本人署名(自筆): 家族署名(自筆):


臓器移植やご支援に関するお問い合わせ

(公社)日本臓器移植ネットワーク

 0120-78-1069 <http://www.jotnw.or.jp>





臓器移植に関するご質問・お問い合わせ先
公益社団法人日本臓器移植ネットワーク
 0120-78-1069 (平日 9:00-17:30)